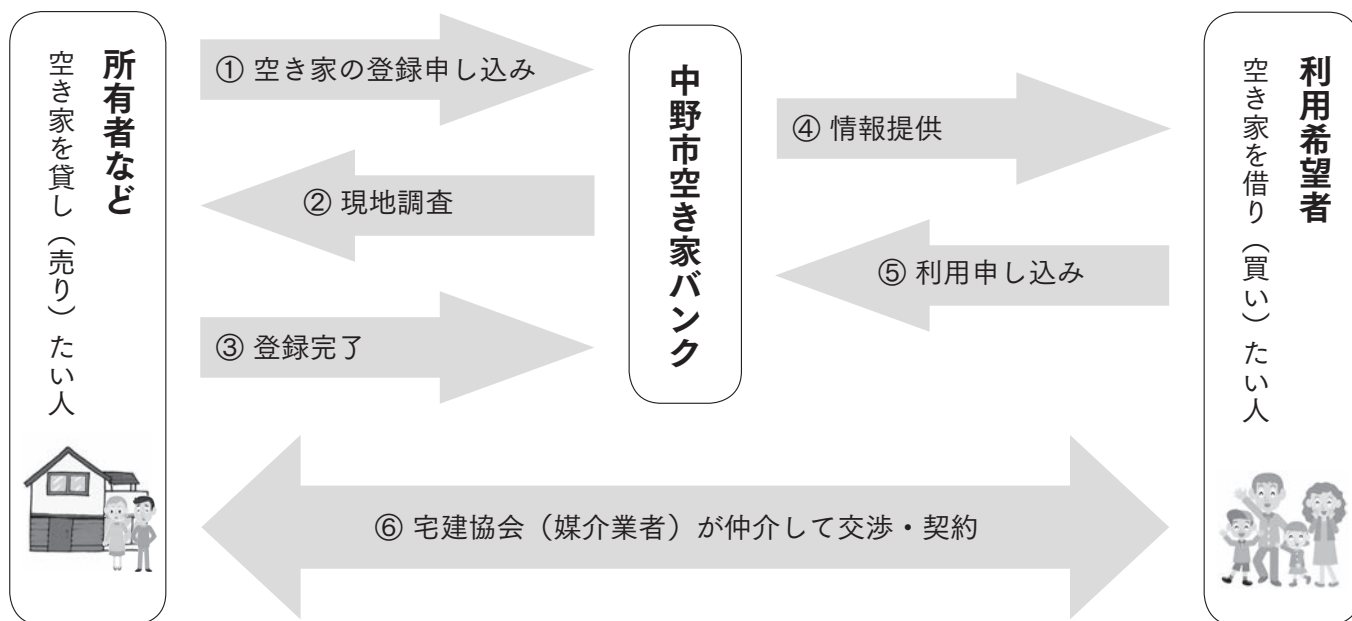


「空き家バンク」に物件を登録しませんか

市では、市内への定住、移住促進による地域の活性化を図るために、「中野市空き家バンク」に取り組んでいます。

「空き家バンク」とは、空き家を所有する方に賃貸または売却を希望される物件を登録していただき、その情報を、市のホームページで公開し、空き家の利用を希望される方に提供する制度です。

「空き家を貸したい、売りたい」という物件をお持ちの所有者からの登録申し込みを募集しています。



登録申し込みをいただいた物件は、市と協定を結ぶ(一社)長野県宅地建物取引業協会長野支部が現地調査し、空き家物件として適正と認められた場合、「中野市空き家バンク」に登録します。

なお、契約交渉は(一社)長野県宅地建物取引業協会長野支部の媒介業者が仲介を行い、成約となった場合は宅地建物取引業法に基づく仲介手数料が発生します。

空き家の有効活用をお考えの皆さんのご連絡をお待ちしています。

詳しくは、市公式ホームページ (<http://www.city.nakano.nagano.jp/>) 内の「中野市で暮らしてみませんか」をご覧ください。

空き家の活用・改修費用を補助します

空き家バンクに登録された空き家の有効活用に対し、予算の範囲内で補助金を交付します。

区分	対象者	対象経費	補助率
空き家活用事業	登録空き家などの所有者	○家財道具などの搬出および処分に要する経費 ○屋内および屋外清掃などに要する経費	補助対象経費の2分の1以内(上限10万円)
空き家改修事業	定住するため登録空き家を購入または賃借した者で、次の要件を全て満たす者 ○市外から転入して1年以内であること ○購入または賃借した登録空き家の所有者などの3親等以内の親族でないこと	次の改修工事に要する経費 ただし、工事費が20万円以上のものに限る。 ○台所、浴室、便所、洗面所などの改修工事 ○内装、屋根、外壁などの改修工事	補助対象経費の2分の1以内(上限40万円)

申請方法など詳しくは、営業推進課へお問い合わせください。

市民リレー元気の輪

No.21

渡辺正子さん
からのご紹介



○自己紹介

わずかな規模ではありますが、アスパラガスを中心とした農家をやっています。65歳までは民間企業に勤めていたことが、当時は病気を患っていたこともあり、引退して実家で過ごすことにしました。

引退後、病気に影響が出ない程度に動けることをしたいと思い、農業を始めました。農業は全くの素人だったので、本を読んだり、先輩の方々と農協の技術員に直接聞くなどして技術を磨きました。

また、病気は新薬が出てきたことで、すっかり良くなり、好きだったお酒も長年やめていましたが、今は毎日のように晩酌しているぐらいで、お酒が飲めない人というイメージ

ジを変えていきたいと思っています。

趣味も音楽、スポーツ観戦、カメラ撮影などいろいろやっています。

特にカメラ撮影は、作品を信濃毎日新聞のコンクールや長野県写真真展に応募したり、撮影仲間と作品発表をしたりして楽しんでいきます。



▲望月さん撮影の写真

○元気の秘訣

私の場合は、一病息災という言葉が一番です。

病気を患っていた期間が長かった分、病気が治った今、身体がすごく軽く感じられます。

今のこの状況を楽しんでいるからこそ、元気に趣味に没頭したりすることができていると思います。

○おらほの自慢

田上は豊國神社がとてもきれいだと思います。カメラ撮影の時に、神社が良く映えていると感じます。桜の時期も神社と桜の組み合わせがとてもきれいです。また、田上の観音さんとして親しまれている観音寺の桜は天下第一品です。



望月 誠 さん (田上)

池田市長の

わくわくしポート

vol. 32



立てば芍薬 座れば牡丹 歩く姿は...

例年になく雪が少ない冬が過ぎ、桜も葉桜となり、いよいよ若葉が目に見える新緑の季節がやってきた。古来、山の木々の若葉の色をもとに衣の色を作り出してきた和のこころを感じる季節ではある。中野市は芍薬の生産量で日本有数の地。サクランボやブドウそしてリンゴといった果樹生産に加えて、花きの生産も盛んな中野市である。芍薬の出荷先は遠く海外にもおよんでおり、農産物を通じて海外との交流の糸は繋がっている。

地方創生のなかで、地域資源の発掘と資源活用による地域振興がテーマとなっているが、中野市は本当地域活性化のための資源が豊富にある。



これらを活かしていくのは私たち一人ひとりの創意と工夫だと思うが、そのためにも「故郷」

中野市をもっとみんなで知る機会が必要だと思う。

さて話は脇道にそれるが、芍薬の花言葉は「はじらい」「はにかみ」「謙遜」といったように、美しい女性の恥じらいの様を示しているといわれる。これは日本人の持つ慎ましさにもつながる、侘、寂といった日本人の美意識にも通じるものがあると思うのは私ひとりであろうか。ただ、芍薬はその花のもつ艶やかさからすると若干重ならないところもあるかと思えるが、一つ私の思いのなかにそう思える俳句がある。それは芍薬を詠んだものではないが、蕪村の「筏士の蓑やあらしの花衣」という一句である。筏を操作する蓑を舞い散る桜花が覆い、ゆったりと川を下る遠目の姿を詠んだものと私は思うが、いかがだろうか。

中野市にあるおいしい果物と花として豊かな自然景観、そこに育まれた文化芸術を誇り、一体となって知らしめる工夫が必要だと考える次第である。5月28日から始まる「信州なかのバラまつり」では、花と緑とおいしい笑顔があふれる美しい中野市を大いに発信する機会したいと思います。